

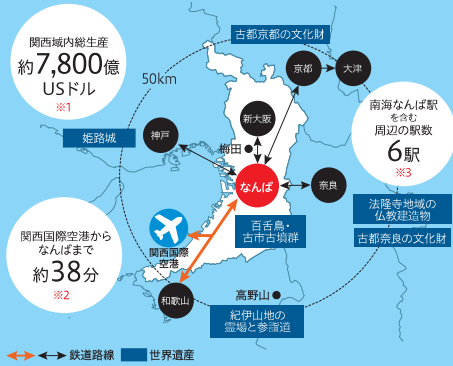
特集 「グレーターなんば」構想

南海グループ最大の事業拠点「なんば」を活性化させる

関西国際空港と直結する世界から関西への玄関口、なんば。一日の乗降客数が90万人規模となる日本の代表的なターミナルシティの一つです。南海グループは、1885年の創業以来、なんばを最大の事業拠点に据え、時代の最先端を追求するまちづくりを行いながら、まちとともに成長してきました。そして今、より広いエリアの活性化を目指す「グレーターなんば」構想を掲げ、さらに魅力あるまちへと変革するための取り組みを、さまざまなステークホルダーとともに進めています。

「なんば」の特長

関西国際空港から特急ラピートで約38分と近く、なんばから関西各地へのアクセスも充実しています。グルメなどの商業施設やエンターテインメント文化の中心である道頓堀などの観光資源が豊富で、大阪らしいカルチャーの発信地として高い人気を誇り、国内外から多くの方が訪れています。近年は、利便性や快適性から、オフィス、居住地としても注目されています。



※1 出典：大阪府ホームページ、2018年度データ、関西は京都府・大阪府・滋賀県・兵庫県・奈良県・和歌山県の2府4県
 ※2 当社特急ラピート利用(当社調べ) ※3 駅数には近畿日本鉄道・阪神電気鉄道、Osaka Metro、JR線を含む

南海がリードしてきた「なんば」のまちづくり

当社の前身である阪堺鉄道がなんばに駅を建て鉄道を敷設したのは、日本全体で近代化が進められていた1885年のことです。ネギ畑が広がっていたなんばの地は、鉄道のターミナル駅ができ、駅を中心に都市機能が集積されていくことで、多くの人々が集うまちへと変貌を遂げました。

1932年 4代目難波駅(南海ビル)

大阪のメインストリート、御堂筋の建設に前後して建てられた4代目の駅舎であり、高島屋大阪店も同年このビルに開業しました。



1978年 なんばCITY

当時珍しかった、高感度ショップが集まる巨大ショッピングセンターとして開業しました。地下の吹き抜け空間にそびえるロケットは、待ち合わせスポットとして親しまれました。



2003年 なんばパークス

日本最大級の屋上公園の存在感が大きく、なんばの雰囲気ガラリと変えました。かつてはオフィスが少ないエリアでしたが、なんばパークスオフィス棟の開業以降、オフィス立地としてのニーズも高まってきています。



「グレーターなんば」が大阪の活力を牽引

18世紀に難波新地が開発されてから今日まで、アジア有数の巨大な盛り場「ミナミ」の一部を構成する難波は、日本におけるエンターテインメントやナイトカルチャーの中心地としての賑わいを継続している。

いっぽうで難波は、大阪の南のゲートという役割を担っている。南海電鉄は、前身である阪堺鉄道が1885年に鉄道を敷設して以降、難波を起点として、堺、泉州、和歌山、高野山、そして関西国際空港などを連絡する広域のネットワークをかたちづけてきた。さらに大阪メトロ、神戸や奈良に延びる他社の鉄道、全国各地を結ぶ高速バスが乗り入れることで、難波は西日本を代表する交通の要の地でもある。さらに近年では多くのホテルが集積、国際的な観光地として変貌を果たした。

将来に向けて、難波の開発動向が注目されている。2025年の万博を経て大阪は、世界から才智を集め、多様な交流や新たな投資を呼び込む真の国際都市として、魅力の向上をみるだろう。そこにあって従来の難波のエリアを拡張した「グレーターなんば」が、関西国際空港から大阪に入るゲートとして注目されるエリアとなる。

難波駅前では新たな広場の整備が進む。また関西国際空港と大阪の都心を直結する新たな幹線となる「なにわ筋線」の事業も具体化し、「(仮称)南海新難波駅」の開設が予定されている。南海電鉄には、さまざまなステークホルダーが競い合い、共創による価値創造を展開する「グレーターなんば」において、ビジネスや人的交流におけるプラットフォームを構築する役割を期待したい。



橋爪 紳也 様

大阪府特別顧問 / 大阪市特別顧問
 大阪公立大学研究推進推進特別教授
 大阪公立大学観光産業戦略研究所所長
 難波エリアの都市格を公民協働で
 高めるまちづくり懇話会会長

「グレーターなんば」ビジョンと南海

インバウンド効果で活性化していた地域経済は、コロナ禍により低迷傾向にあります。2025年の「大阪・関西万博」開催や2029年の「IR(統合型リゾート)開業」、2031年の「なにわ筋線開業」などで来街者の増加を見込みます。

関西経済が大きく動くこの絶好の機会をまちの成長に活かしていくのが「グレーターなんば」構想です。なんばターミナルから新今宮・新世界の南北ラインを軸に、賑わいの回遊空間を創出し、「もっとワクワクするエリア」へと進化させていきます。

エンターテインメントを核にした「力ある繁華街」をまちのさまざまなステークホルダーと共に創ります。その街の「側で働き・くらすステイの魅力」が高まることで、南海ブランドの価値も向上する好循環を目指しています。

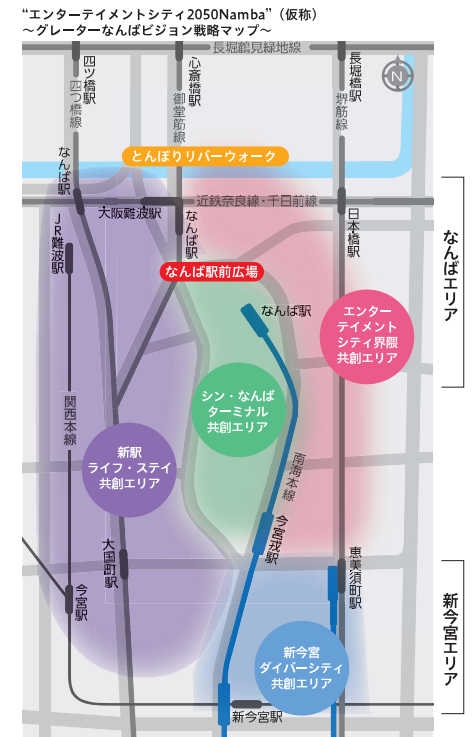
重点エリア ソフト戦略をエリアごとに展開することで、未来の収益基盤創出をハード戦略として落とし込む

新駅 ライフ・ステイ 共創エリア なにわ筋線新駅から西・南に広がる大規模開発ポテンシャルを持ったエリア。オフィス、都心型住居を始め、ホール・展示場等新しい都市機能を備えたなんば新都心を目指す。

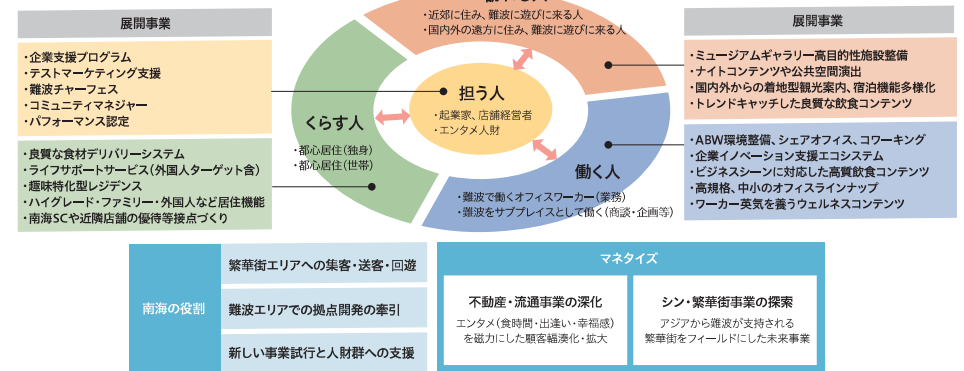
シン・なんばターミナル 共創エリア 約一世紀にわたる当社開発共創エリア。スクラップ&ビルドに合わせ、未来の「シン」なんばターミナルに相応しい都市型商業集積や次世代型集客機能が融合した街区を目指す。

エンターテインメントシティ 共創エリア “エンターテインメントシティなんば”中核エリア。なんば駅前広場が人・情報のハブの役割を果たし、伝統・文化の継承、ポップカルチャーの融合等エンタメが充実した大阪観光の中心地を目指す。

新今宮 ダイバーシティ 共創エリア なんば・天王寺を結ぶ好立地エリア。国籍や世代を超えたさまざまな要素が交ざり合い、新しい文化・情報が発信され続けるまちに生まれ変わることで、暮らし・働く・訪れる各シーンでの活動拠点として、グレーターなんば第二の玄関口を目指す。



「グレーターなんば」ビジョンと南海の関係



エンタメを核にした「力ある繁華街」をまちと共に創り、その街の「側で働き・くらすステイの魅力」を南海ブランドに

特集「グレーターなんば」構想

プロジェクト紹介

「グレーターなんば」は、「まち共創」の理念を掲げ、地域のステークホルダーとの共創・協働のもと、なんばエリアに世代や国籍を超えて多様な人々が集まる拠点を開発するまちづくり構想です。

なんば駅前広場を中心に、なんば～新今宮に広がる「グレーターなんば」の創造に向けた代表的なプロジェクトをご紹介します。



将来の広場のイメージパース図



社会実験の様子(2021年実施)

2

プロジェクト

変わる「難波中二丁目開発計画」に参画

なんばパークス南側に広がる約9,000m²の用地をA～C敷地に三分割して複数社で再開発する「難波中二丁目開発計画」に参画しています。

当社は、双日(株)、(株)日本政策投資銀行との三社で「なんば開発特定目的会社」を設立し、南側のB敷地において地上14階 延床面積約2万m²のオフィス・店舗から構成されるビルを建設しています。ビルは南海なんば駅からなんばパークスにつながるベデストリアンデッキと接続し、2階には店舗区画を配置することで、なんば以南エリアの回遊性および界限性の向上を目指します。



1

プロジェクト

なんば駅前を「居心地の良い広場」に変える

なんばは、関西国際空港や大阪のキタエリア・御堂筋エリアに直結する主要交通拠点です。その顔である駅前を、国際集客力のある「大阪のおもてなし玄関口」にふさわしい、居心地の良い広場へと再編します。

その実現に向け、車中心の駅周辺道路を歩行者専用道路化し、待ち合わせや休憩ができる歩行者中心の空間を創出します。また、ミナミ・大阪・関西を回遊する拠点として、地域と連携して観光情報を発信する案内所を設置するなど、世界的繁華街ミナミの新たなシンボル空間を生み出します。

3

プロジェクト

新今宮の駅とまちをアップデート

新今宮駅のリニューアルが2022年3月に完了し、東西両側への改札口の新設やオープンカウンターの駅務室併設等によって利便性とデザイン性が向上しました。

周辺地域ではシェアスタイルの企業寮や日本語学校の学生寮の開設計画を進めています。また駅の東側では、観光を目的とした「OMO7大阪 by 星野リゾート」がオープンし、賑わいが創出されたことで、まちの雰囲気も変わりつつあります。

今後もグレーターなんばの基本指針である「なんばの南方向への拡大」を念頭に、新今宮を「第二の玄関口」と位置付け活性化を進めます。



リニューアルした新今宮駅



「OMO7大阪 by 星野リゾート」

難波エリアの都市格を公民協働で高めるまちづくり懇談会

難波エリアの都市格を高めるまちづくりビジョンを策定

まちづくりに関わる多様な関係者からなり、大阪商工会議所と当社が協働で事務局を務める「難波エリアの都市格を公民協働で高めるまちづくり懇談会」は、2022年4月に「難波エリアの都市格を“エンタメ”と“ステイ”の力で高めるまちづくりビジョン」を取りまとめました。

なんばの魅力は、大阪らしい食や文化・芸術を体験できるスポットが点在し、特別な期待感(ハレ)を満喫できる「エンタメのちから」にあります。そして、今後なんばの都市格をさらに向上させるには、暮らしや仕事など日常の期待感(ケ)を支える「ステイのちから」も必要です。この2つのちからを高めるため、万博開催時のフェスティバル開催、なにわ筋線の新駅周辺における拠点形成などを提案しています。



国際的な観光都市として成長する難波エリアの未来イメージ

本パース図はビジョンをイメージしていただくために作成しているものであり、関係機関や地権者の方々の合意を経て作成したものではありません

ビジョンの柱となる2つのちから



ステークホルダーの声

大阪の地域活性化には、核となる拠点が切琢磨磨しながら魅力発信することが重要です。グレーターなんばは、大阪のランドマークを担う観光拠点で、他にはない多層的な食、文化芸術、商業集積が大きな魅力です。この魅力をさらに磨き、広く発信するために、地元自治体、企業、団体の皆様と議論を重ね、ビジョンをまとめました。2025年大阪・関西万博の開催時に展開するまちなか全体での「チャーフエス^{※1}」は、他拠点での取り組みとも一体的に発信することで、大阪の魅力を強くアピールしたいと考えています。また、大阪商工会議所は、大阪府南部地域を「グレーターミナミ^{※2}」と呼び、一体的な都市経済圏としての活性化を目指しています。南海電鉄さんには、グレーターなんばの発信力を高めるとともに、グレーターミナミ全体に波及させる取り組みでの協働についても、大いに期待しています。



大阪商工会議所 地域振興部長兼 万博協力推進室長 玉川 弘子様

※1 チャーフエス：難波の個性あるカルチャー・新たな挑戦を受け入れるベンチャー・わくわくするアドベンチャーな難波のまちの未来のフューチャーを描いていきたい思いから命名
※2 グレーターミナミ：難波、新今宮、阿倍野・天王寺・上本町を結ぶエリアを起点に、大阪府南部の泉州と南河内を含む地域を指す